

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470500677
法人名	大信産業株式会社
事業所名	グループホーム みのり
訪問調査日	平成20年2月15日
評価確定日	平成20年3月29日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1470500677		
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり		
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市南区堀ノ内町2-136-3 (電話) 045-712-1613		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	平成20年3月29日

【情報提供票より】(20年1月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 2 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り 3階建ての 1 階 ~ 3 階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	53,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(522,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1600 円				

(4) 利用者の概要(1月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤病院 五味洲歯科医院 田歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは市営地下鉄蒔田駅から徒歩7分の、表通りから1~2軒入ったところにある。周辺は住宅密集地で、その裏は商業地であるが、案外と閑静である。ホームの理念を管理者・職員が共有し、利用者の主体性を尊重して毎日のケアの積み重ねを大事に支援している。健康のものは食にあるとの考えに基づき、野菜は近郊の産地まで買出しに行き、水は箱根や丹沢まで名水を汲みに行き、新鮮な野菜と美味しい水を提供している。寝たきりにさせないためには食と同時に運動が大事と考え、毎日2回の体操と、天気が良ければ散歩に出ることを心がけている。雨の時は室内でボーリングゲームやパターゴルフを励行している。さらに音楽療法を取り入れており、ピアノ伴奏をして全員で唱歌やナツメロを歌っている。利用者は皆明るく穏やかで、笑顔の絶えない生活を楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 月1回の全体会議の開催が前回評価で改善課題としてあげられたため、現在は毎月のミーティングを実施している。また、葉や包丁などの注意が必要な物品の保管は、鍵のかかるキャビネットに保管することに変更し、実施されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価を実施するに当たり、管理者は評価の意義や狙いを説明した。職員は実施方法などを話し合い、常勤、非常勤を問わず全員でそれぞれが記入できることを記入し、最終的には管理者がまとめて完成させた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議はまだ開催していない。開催のために準備をしている段階である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者及び家族には、契約時に、意見や苦情の相談窓口があることを重要事項説明書で説明し、確認してもらっている。また、家族の来訪時などには、ホームをより良くするためにも意見や苦情を気兼ねなく言ってほしい旨を伝えている。苦情・相談受付用紙は用意してあるが、これまで苦情の受付はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所の代表者は町内会長や役員を経験し、地域で良く知られている。毎日の利用者全員での散歩に同行して、地域の方々に声をかけたり、かけられたりして交流を拡げている。清掃などの地域活動や夏祭り、さくら祭り、盆踊りなどの地域行事、近所の学校の運動会などにも参加している。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の残存能力を最大限に生かし、主体性を尊重する」「家庭的で暖かい雰囲気の中で、生活の質を高め、尊厳のある生活を送れるように援助を行なう」との理念を策定している。玄関や各フロアーに掲示して周知している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は入職時に理念の説明を受けている。カンファレンスやミーティング時に、職員間で理念について話し合いをし、再確認をしている。「残存能力を生かす」ために毎日のケアの積み重ねを大事にして支援しており、車イスにのみ頼っていた方が、室内では歩行が出来るようになったケースもある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の代表者は町内会長や役員を経験している。毎日の利用者全員での散歩に同行して、地域の方々に声をかけたり、かけられたりして交流を拡げている。清掃などの地域活動や夏祭り、さくら祭り、盆踊りなどの地域行事、近所の学校の運動会などにも参加している。歌やフラダンスのボランティアが来てくれることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する前に、管理者は評価の意義や狙いを説明した。職員は実施方法などを話し合い、常勤、非常勤を問わず職員全員でそれぞれが記入できるところを記入し、最終的には管理者がまとめて完成させた。前回の評価で明らかになった課題や気づきについては、直ちに改善に取り組んだ。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議についてはまだ開催していない。開催のために準備をしている段階である。		運営推進会議については、市・区と打ち合せの上、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、利用者及び家族などと連絡を取り、早期に開催することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年は市からの委託事業で認知症理解講座を受託した。そのほかにも、認知症専門医について照会したり、成年後見制度のパンフレットをもらいに行ったりなど、市・区の担当者とは意見を交換する機会を作り、事業所について認識してもらえるように努めている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、利用者の暮らしぶりや日頃の様子を手紙に書き、毎月の請求書に同封して知らせている。金銭管理についても出納帳と領収書のコピーを同封している。家族の来訪時にも利用者の状況を知らせ、レクリエーションの写真やビデオを見てもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族へは、契約時に、重要事項説明書で意見、苦情相談窓口があることを説明し、確認してもらっている。また、家族の来訪時などには、ホームをより良くするためにも意見や苦情を気兼ねなく言ってほしい旨を伝えている。苦情・相談受付用紙の用意はあるが、これまで苦情の受付はない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来5年間で、管理者、常勤職員の交代はない。非常勤職員は、高齢のためと出産のために退職した例があるが、職員体制は概ね安定している。馴染みの職員によるケアが利用者にとっては最高の支援となっている。各職員は全ての利用者とは満遍なく関わり、状態を把握しているので、職員の離職による影響は最小限に留められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の学習を奨励し、段階に応じた研修の機会を設けている。実践者研修、リーダー研修のほかに市の連絡会、ブロック会の講習や交換研修なども活用している。外部機関の研修もパンフレットを回覧し、ふさわしい研修があれば声をかけている。受講後は報告書を提出し、ミーティングで発表して研修内容を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加し、全体会(年1回)とブロック会(3ヶ月1回)で情報交換や勉強会、交換研修などを行なっている。系列のグループホームや小規模多機能型居宅介護事業所と、イベントやレクリエーションなどを相互乗り入れして実施し、利用者や職員も交流して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用希望者には、家族と一緒に見学や面談を何回か重ねて、昼食を一緒にとったり、レクリエーションと一緒に参加して、ホームに慣れてもらっている。入居当初は、場合によっては家族の来訪回数を増やしてもらうなどの工夫もしている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>多くの利用者が食事中に「こんなおいしい食事は、はじめてだ」という言葉を言ってくれるので、職員も食事の準備に張り合いをもてる。夜勤時には「まだ起きているのか、疲れないか」といたわってくれる。利用者は競争体験や行事の意味・手順、生活の知恵などを教えてくれたり、昔の話を聞かせてくれるので、若い職員は楽しみにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者からは日常的に希望を聞いており、「歌を歌いたい」という希望が多い。ピアノ伴奏で童謡、唱歌、ナツメロなどを歌っている。意向を言葉にしづらい方は、表情やしぐさなどから汲み取るようにしている。手紙に書く方もいるので、職員はその内容から思いを把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回の介護計画は、アセスメントを確認し、本人及び家族の希望を聞いて作成して、1ヶ月位で見直している。その後は毎月モニタリングをして、本人、職員、ケアマネジャーなど必要な関係者と話し合いをし、精神的・身体的な状況や通院記録などをもとに3ヶ月ごとに見直しをしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のカンファレンスで介護計画の達成状況をモニタリングし、3ヶ月に1度計画の見直しをしている。変化がなくても、本人から希望を聞き、計画の内容について話し合っている。入院など状況に変化があった場合は、本人、家族、職員等で話し合い、新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、都合が悪い時はホームで通院介助をしたり、送迎の支援をしている。協力医療機関へは、月に1度利用者全員が受診に行く。医療機関から訪問診療の勧めもあるが、運動のためにも全員で出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医へ通院する際は、家族に介助をお願いしている。受診後には報告してもらい、医療情報を共有している。職員が通院介助を行なう場合は、通院記録に記入して、医師の指示、服薬管理などの情報を職員間で共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族とは、入居時から、重度化した場合にホームで出来る範囲について話し合っている。常時医療行為が必要になった場合は病院へ入院となる場合があることを示し、了承してもらっている。職員間では「最後まで」という方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへの誘導は他の利用者の前では避け、タイミングを見計らって声をかけている。失禁した時には「汗をかきましたね」と声をかけて、トイレに誘導したり、浴室でシャワーを使い、プライバシーに配慮している。個人情報の含まれる資料などの記録類は、鍵のかかるキャビネットに収納している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその日何をやりたいのか、一人ひとりの個性やこだわりを尊重して、職員も一緒に考えながら支援している。利用者は、歌、音楽、脳トレ、計算ドリル、映画などを楽しんでいる。ピアノの先生の伴奏で唱歌などを、また、クリスマスソングを英語で歌っている。早口言葉にも挑戦している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に同じ物を食べている。職員が話題を提供し、利用者が笑いながら食事を楽しんでおり、ほほえましい光景であった。利用者は、それぞれ自分のできる範囲でテーブルを拭いたり食器の後片付けを手伝っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望により自由に入ってもらっている。通常は週に2~3回入る方が多い。入浴をしない日でも、散歩の後には足浴をする。入浴しながらない方には、タイミングをずらして声かけをし、入ってもらおうようにしている。要介護度の高い方も二人介助で入ってもらい、本人も嬉しくて声を出して喜んでいる。		
↓					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「入居者情報」で趣味や生活歴を把握しており、掃除をする人、他の人の歯ブラシに歯磨き粉をつける人、散歩後のうがいコップを用意する人、洗濯物をたたむ人など、それぞれに出番を作っている。訪問時は、書道の得意な方が食事のメニューを事業所の記録として記入し、職員に感謝されていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、朝・夕2回体操をして、天気良ければ散歩に行くのが日課である。歩行困難な方も車イスで参加し、近所の公園等を一周する。近くの商店街へ買い物に出かけることもある。車で花見に行き、帰りに寿司を食べたり、バイキングなどの外食も楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の門扉が道路に面していること、隣の駐車場で車上盗難があったことなどから、家族と相談して、防犯上、玄関は日中も施錠している。1Fと3Fに居室があるが、職員同士が見守り、声かけし、エレベータの動きを注視して連携している。近隣及び警察に理解を拡げ、見守りや連絡の協力をお願いしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署から消火器の取扱いやカーテンの防災化の指導を受けた。災害時対応マニュアルがあり、職員は避難経路、避難場所を確認している。非常用の食料・水などは、米30Kg、缶詰、もち、野菜、味噌、調味料などを地下倉庫に備蓄している。定期的な避難訓練及び地域との相互協力体制の構築は今後の課題である。		火災のみならず地震、水害等の災害時の被害を防ぐために、消防署の指導による避難訓練を定期的実施することが望まれる。また、事業所だけでなく、地域住民の参加、相互協力を得られるよう働きかけることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は新鮮なものを使うようにしている。なるべく多くの野菜を摂るように工夫し、毎日ヨーグルト、フルーツ、納豆などを欠かさないようにしている。野菜は地場の農家に出しに行き、肉や魚は、使う時にその都度買うようにしている。水は、箱根、丹沢の名水を汲みに行き、利用者に喜ばれている。 食事・水分の摂取量は、毎日の健康チェック表に記入して把握している。カロリーや栄養について専門的なチェックは受けていない。		定期的に、栄養について専門的なチェックを受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は鉄骨3階建てで、1階と3階が居室、2階が利用者が日中を過ごすリビングとなっている。東南の角地で、窓も東側と南側に大きく広がり、明るく日当たりも良い。食堂兼リビングのほかに、レクリエーションルームと和室もあり、ゆっくりくつろげる。各フロアにソファやイスが置かれ、一人や二人で過ごせるスペースを確保している。所々に草花が飾られ季節が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンス、鏡台、テレビ、仏壇、ベッドなどの使い慣れた家具が持ち込まれ、家族の写真などに囲まれて、安心して心地よく過ごせる空間になっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみのり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 年 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民として地域の輪に入り、一人ひとりのもてる力で地域住民としての役割を果たし、愛着の持てる場作りを目指している。 		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者と職員は、理念を共有し、理念の取り組みに向けホームの見学会、セミナーの実施、地域催しへの参加等積極的に行っている。 		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	<ul style="list-style-type: none"> ・家族には地域と関る大切さを理解していただき、参加行事等を案内し共に地域と関わってもらう。 ・地域の方々には、認知症を正しく理解していただくためにセミナーを開催したり、レクリエーションに参加してもらったり馴染みの関係を作るよう努めている。 		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人達が気軽に遊びに来たり立ち寄ってもらえるように取り組んでいる。 ・入居者の生活の広がりや安全のために、商店、警察、消防署、地域福祉施設等に理解を広げる働きかけをしている。 ・来訪を希望される方にはいつでも開放している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・散歩の途中で出会う地域の方々と、気軽に声を掛け合うようにしている。 ・美容ボランティアや介護実習生等を受け入れ、利用者は出会いと行動範囲が広がっている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業代表者及びホーム長は地域の役員を引き受け、日頃より地域の人たちと関係を深めるよう努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長、地区防災部長、老人会会計、区保健活動推進員を引き受けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・入居者のケアに配慮しつつ認知症の理解講座、相談、家族やボランティアの見学、介護実習生の受け入れ等をおこなひ、地域に開放している。</p>		<p>・区の委託による認知症の理解講座の実施。</p> <p>・介護実習生、公共機関からの見学等を積極的に受け入れている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・サービスの質を評価することの重要性を職員に理解してもらい、評価結果をその後のサービスの向上に生かせるようにしている。</p>		<p>・評価結果を職員全員に確認してもらい、ミーティングのテーマにしている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議未開催。</p>		<p>・運営推進会議を開催する。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市町村事業などを積極的に受諾している。</p>		<p>・認知症に対する理解をテーマにした委託事業を受諾して地域の方に参加してもらいよ喜ばれた。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学び、利用者や家族に伝え、それらを活用できるように支援している。</p>		<p>・認知症の理解講座開催時、権利擁護事業、成年後見制度のパンフレットを参加者にわたした。</p> <p>・研修への参加。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・虐待とはどのような行為なのか、高齢者虐待防止法に記載されている項目を職員は確認している。</p>		<p>・高齢者虐待防止法で示されている行為と、具体的な例をいつでも見られるように、介護記録の整理キャビネットに入れてある。</p> <p>・研修への参加。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約を結んだり解約をする際は、十分に時間をかけて説明を行い理解と納得を図っている。</p> <p>・質問や疑問点がないか、こちらから細かく声をかけるようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者には相談や苦情はいつでも言えるということを常に伝え、窓口には直接ホームの担当者か、第三者に伝えたい場合には公的窓口があることを文書と口頭で伝えている。</p> <p>・苦情が寄せられた時には速やかに対応し、改善に努めるように職員で検討する。</p>	<p>・重要事項説明書の説明時、相談苦情窓口の記載場所を確認していただいている。</p> <p>・利用者の方には不満や苦情を言っていただくことがホームを良くすることにつながるので気兼ねなく言ってもらいたい旨を伝えている。</p> <p>・日頃の関りの中で、利用者の意見を知るように努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的に家族に知らせている。</p> <p>・金銭管理を定期的に家族に報告するとともに家族からの開示要請にいつで答えられるようにしている。</p>	<p>・月に一度写真等を同封するなどして、近況を手紙にて知らせしている。</p> <p>・家族が訪問された時には写真やビデオを見てもらっている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族には相談や苦情はいつでも言えるということを常に伝え、窓口には直接ホームの担当者か、第三者に伝えたい場合には公的窓口があることを文書と口頭で伝えている。</p> <p>・苦情が寄せられた時には速やかに対応し、改善に努めるように職員で検討する。</p>	<p>・重要事項説明書の説明時、相談苦情窓口の記載場所を確認していただいている。</p> <p>・家族には意見や不満、苦情を言っていただくことがホームを良くすることにつながるので気兼ねなく言ってもらいたい旨を伝えている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・職員の採用、運営方法、入居者の受け入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。</p>	<p>・職員も一緒に考え意見を出せるように、運営の状況や情報を伝えている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・入居者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応できるように職員と話し合い勤務の調整を行っている。</p>	<p>・都度利用者に合わせたシフトを組むように努めている。</p> <p>・突然のシフトの変更でも互いにフォローしあえるように日頃から職員間で良好な人間関係を作るようにしている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・主体的に業務に関ってもらい、仕事に手ごたえを感じてもらおう。移動や離職の場合、本人から利用者につきっきりと事情を説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員が日常的に学ぶことを推進しており、職員それぞれの段階に応じて研修参加の機会を作っている。	・研修機関からのパンフレットを職員に回覧し、受講希望を表示している。 ・その人にふさわしいと思う研修には管理者から声をかけている。 ・参加者は研修資料や研修内容をまとめたものを作成、それをもとに報告勉強会を行っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市のグループホーム連絡会に所属し、そこで実施されている交換実習に参加している。 ・同じく連絡会ではブロックごとに担当を決め3カ月に一回の割合で勉強会を行っている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員間の親睦に力を入れている。 ・職員がくつろぎ休める時間や場所を作っている。	・ミーティング後の夕食会、季節のイベント、同世代の旅行など、気持ちを切り替えられる機械や何でも話せる雰囲気を作るようにしている。 ・朝はみそ汁を飲みながら、お昼は昼食後にコーヒータムを設けてゆったりできる時間を作っている。 ・休憩室は洋室和室あり、両方冷暖房の設備がある。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・管理者はケアの工夫や努力したことを見逃さず評価するようにしている。 ・それぞれの努力が他の人の刺激になるように、ケアの方法や工夫を職員間で話し伝え合っている。	・研修の情報は職員全員に回覧、希望する研修には参加できる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から利用に至るまでに本人の不安や困っていること、希望等を十分時間をかけて聞くようにしている。	・利用に至る前にホームでの昼食やレクリエーションの参加等「試し利用」を勧めている。 ・本人の不安や戸惑いを少しでも軽減できるように、話をゆっくり聞く機会を必要な回数作るようにしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から利用に至るまで家族が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞き、混乱が整理できるように支援している。 ・可能な選択肢を提示し、家族がよりよい方向を考えられるように支援している。	・利用に至る前にホームでの昼食やレクリエーションの参加等「試し利用」を勧めている。 ・家族の混乱や戸惑いを少しでも軽減できるように、認知症について説明するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・可能な選択肢を提示し、自己決定できるように支援している。		・市町村のサービス、介護保険のサービス等公平な立場で説明するようにしている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホームの雰囲気や、入居してからの生活が具体的にイメージできるようにしている。 ・家族にはグループホームに入居することをきちんと本人に説明してもらうようお願いしている。		・ホームでの昼食の参加やレクリエーションの参観など「試し利用」を勧めている。 ・家族には入居の判断によって罪悪感など持たないように、面会の自由、生活状況の報告、写真の提示などで安心できるようにサポートしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・生活の知恵や経験したことを生かし、職員も入居者に助けてもらったり教えてもらったりしている。		・季節の行事の意味や飾り付けを教えてもらう。(同じ行事でも地方によって様々なやり方があるなどの発見がある) ・戦争体験など語っていただくことで、活字になっていないより具体的な事実を知ることができる。今後地域の子供たちにこのような話を聞く機会を作っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族にはホームを一つの家族と思っていただけるように、他の入居者の方々と触れ合える機会を作っている。		・家族の訪問が他の入居者も共に楽しめるように、皆さんとお茶や食事を一緒にしてもらう機会を作っている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・近況を定期的に手紙で知らせている。 ・面会の時には写真やビデオを見ていただき普段の様子を伝えている。 ・面会時には質問しやすいように必ず職員は声をかけている。		・家族との外出や、外泊がスムーズにいくように、外出前後の様子を伝えたり、家族の気がかりなことを伺い、ホームでの対応方法を伝えている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前に住んでいたところを尋ねる。 ・友人知人に手紙を書いたり連絡を取ったりできるように支援している。		・家族の訪問が他の入居者も共に楽しめるように、皆さんとお茶や食事を一緒にしてもらう機会を作っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・掃除ができない人の部屋を掃除してくれる人、不穏になった人の話をじっくり聞き落ち着かせてくれる人、歩行が不安定な人に「だいじょぶか」といつも声をかけてくれる人、散歩のときに道路の安全を確認してくれる人、献立の記録を書いてくれる人、冗談を言って雰囲気や和ませてくれる人、皆さんの力に感謝し、職員はそれぞれの方が力を十分に発揮できるように支援している。		入居者同士が支えあう力は職員とは違った力があり、その力が十分に発揮できるようなケアを職員は目指している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・退去理由を十分に説明する。 ・退去後の不安が軽減できるように、連絡機関やサービスの情報等を相談に応じて伝えている。 ・本人が安定して生活できるように必要な関係機関と情報の交換を行う。 		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握するために、日常の関わり中で自然に発せられる言葉を聞き逃さないようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者が言った言葉そのままを、できるだけ介護記録に書くようにしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に本人や家族関係者から、生活歴、生活習慣、一日の過ごし方等アセスメントを行うが、毎日の関わりからも一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を知るよう努めている。 		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのペース、手順、こだわりを大切に、日々の暮らし方が安定しているか、変化がないか等常に把握するように努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回のモニタリングにより変化を知るようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの思いや有する能力が発揮できるように、職員からは日ごとの様子、家族にはこれまでの暮らしぶりや担ってきた役割等を聞きながら、ケアのあり方を一緒に考え介護計画を作成している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本人の思いや意向を家族に伝え、本人の思いと家族の思いがつながるようにする。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回のモニタリングを行って身体の変化、状況の変化を知り、介護計画の見直しを行っている。 ・変化が生じた場合、本人や家族、職員等関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・介護計画や日々のケアに反映させるために、その日の様子や変化、気づき、ケアの工夫等を個別に記録し情報を共有できるようにしている。</p>		<p>・毎日各利用者に関する24時間を記録している。</p> <p>・情報を共有するため、わかりやすく色分けで記入している。</p> <p>・職員には、各自の記録を常にチェックするように伝えている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・グループホームの特性(少人数)を活かし、本人家族の要望に柔軟に対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>・地域の警察消防署と連携し、利用者が安全に生活できるように努めている。</p> <p>・地域の保育園児と一緒に散歩を楽しんでいる。</p>		<p>・地域の小中学校とも協力していきたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・本人の意向や必要性に応じて、区や福祉保健センターのサービスを利用している。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>			<p>・退去時等、本人家族の意向や必要性に応じて地域包括支援センターとの協働する。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・本人や家族が希望する医療機関への受診に協力している。</p> <p>・ホームの協力医療機関を利用する場合は、本人や家族に説明し納得していただいた受診としている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・地域の脳外科クリニックにて認知症に関する診断や治療を受けている。 ・職員の相談にも応じてくれる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・医療的なことについては協力医療機関にすぐ相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・利用者が入院した場合、ホームでの生活感覚が途切れないように馴染みの職員が病室を訪ねている。また早期に退院できるように病院関係者と情報交換している。		・急変時や夜間の対応を確認し、できるだけ早く住みなれた部屋に戻れるよう医療機関と協力している。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した場合や終末期のあり方、誰とどこでどのように過ごしたいかを本人や家族に尋ねている。普段の会話の中で表現されることもあるので、日常の会話を大切にしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度化や終末期の利用者が、日々苦痛なくその人らしく生活できるように、必要な関係機関と連携を図り、家族の協力も得ながら支えていく。		・事業所としてどこまで支えられるのかを職員と話し合い、家族に伝え、その中でできる限りの取り組みをしている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・本人が別な居所に移り住む際、家族及び本人と移り住むところの関係者と話し合い、必要な情報を提供し本人が不安なく生活できるように協働する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・居室で過ごしているとき、入浴、排泄時には特に本人の意思を尊重し、個性を大切にしている。 ・記録等の個人情報は鍵のかかるキャビネットに整理している。	・職員は入居者同士が互いのプライバシーを守れるように支援している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者が自己決定できるように、一人ひとりの理解力や能力に合わせて説明をしている。 ・本人が決定や気持ちを表現できることを大切にしている。	・一人ひとりのペースを乱さないように、せかさずゆっくり待つようにしている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの個性やこだわりを尊重し、生活のリズムやペースを守るようにしている。	・動きや表情などの観察から、言葉以外の情報を得るようにしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・職員は、毎日その人らしく身だしなみが整えられるように支援をしている。 ・ヘアスタイルや着る物を決めるときには、季節や外の様子を伝えるなどして、志向に広がりを持てるように支援している。	・職員は、装いや変化に気づき感想を伝える。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員も入居者と同じ物を一緒に食べながら、子供の頃の食べ物や食事風景、得意な料理、食材や季節など楽しい思い出を話せるように話題を提供し、皆さんが幸せな気持ちで食事できるように努めている。 ・一人ひとりのペースを大切に、食事時間はその時々雰囲気流動的に考えている。	・新鮮な食材を用いて、毎回手作りで出来立てを出している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・おやつなど好みのもを一人ひとりの状況に合わせて楽しめるようにしている。 ・お茶の温度などそれぞれの好みに合わせて準備をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄の失敗やおむつの使用を減らすため、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。		・日中の排泄は全員トイレを使用できるように支援している。 ・羞恥心プライバシーに配慮し、声をかける場所、タイミングに配慮している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・安全に配慮しつつ、一人ひとりの身体機能や能力に合わせて自立できるように支援している。 ・希望の時間や手順を尊重している。		・プライバシーに配慮して、脱衣から着衣まで他の人と重ならないように時間を考えている。 ・入浴できないときは足浴を行っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活習慣や体力、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるように支援している。 ・活動と休息のバランスを考えている。 ・不快な音や光の調節等環境を整備するようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人ひとりの特技や能力を知り、出番や役割が見いだせるような場面作りを行っている。 ・皆さんと一緒に楽しめること、個々に楽しめることを、状況を見極めながら支援している。		・地域の催しに参加し、様々な人と触れ合う機会を作っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 ・職員はお金を持つことの大切さを理解しているが、本人の不安、トラブルの原因を作る場合もあるので、本人の気持ちを尊重しながら適切な管理の支援をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・職員体制によって希望日に実現しない場合もあるが、できるだけ戸外に出かけられるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・花見やお祭り、運動会など、地域の催しの情報を伝え、希望するものに参加できるように支援している。 ・レストランやホテルのバイキング、おすし屋など、外食の機会を作っている。		・行ってみたいが実現が不可能な場合、ビデオ等の活用を考えたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の能力に合わせて、家族や友人と通信できるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地良く過ごせるよう工夫している。	・家族や知人等が気軽に訪問でき、訪問時は居心地良く過ごせるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員の控室にポスターを掲示したり、身体拘束の項目を確認している。		・身体拘束を行った事例はないが、今後も一人ひとりの性格や行動パターンを見極め、不安や混乱に早めに対応するように努める。 ・研修への参加。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・門の外すぐに車の往来があり安全のために門扉には鍵をかけているが、一般の家庭と同じように外出時や帰宅時には利用者自身にチャイムを操作してもらい、心理的圧迫感を感じないように努めておる。 ・居室の施錠は本人の意思、職員が掛けることはない。		・外出制限ではなく防犯のために門扉玄関には鍵をかけていることを、入居者、家族に説明をし理解をしてもらっている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・3階建てなので、常に利用者が居る場所を職員間で伝え合って、本人が不快にならないよう安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・注意の必要な物品の保管場所や管理について職員一同共通認識を持ち、常に同一の場所にあるか、量や変化に気をつけている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハット報告用紙を用意し、小さなことでも報告、改善、結果検討の流れを作っている。 ・ヒヤリハットに気づける介護、報告できる介護に努めている。		・ヒヤリハットを書くことに抵抗を感じないように、失敗ではなく気づきと捉えるようにしている。 ・リスクマネジメント等研修への参加。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時対応マニュアルを作成し全職員で確認している。 ・入居者の緊急連絡先、医療機関の連絡先、緊急時職員連絡網を、すぐに取り出せるように整備している。		・職員は年1回救命法の講座出席を予定している。(すでに一部実施)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・職員は状況に応じた非難手順、避難経路、避難場所を確認している。 ・災害時対応マニュアルを作っている。		・利用者が不安にならないよう配慮し、年1回避難訓練を行う。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入居時に身体状況、これまでに起きた事故、医療情報を伺い、家族と一緒に起こりうるリスクについて考え、その時の対応方法を確認すると共に、ホームでの努力目標についても説明している。		・身体状況に変化があった場合ご家族に報告し確認をしていただくように努めている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・一人ひとりの身体状況の変化や異常の早期発見のため、毎日のバイタルチェック、水分、食事の摂取量、排泄、睡眠、月2回の体重測定を記録し、変化がすぐに分かるように1枚の用紙にまとめている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法用量について薬情報に目を通し承知している。 ・医師の指示通りに服薬できるように支援し、症状の変化を確認している。		・診察時の医師の指示や処方薬の変化等を通院記録に記録している。 ・個別に服薬チェック表を作り間違や飲み忘を防いでいる。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・職員は便秘の原因やその影響を理解し、予防のために飲食物の工夫や、運動への働きかけを行っている。 ・一人ひとりの排便リズムを把握し、適切な排便誘導に努めている。		・食事に野菜を多く取り入れ、1日1回ヨーグルトとフルーツを食べている。 ・全身運動に心掛け、朝夕2回の体操、散歩を日課に取り入れている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・職員は口の中を良好に保つことが、食事をおいしく食べられ健康維持につながっていることを理解し、毎食後歯磨き、入れ歯の手入れができるように支援している。 ・毎食後の歯磨きが生活習慣になるようにし、口の中の汚れや臭いを予防している。		・食事ごとに歯ブラシとコップを準備し、歯磨きをした人と忘れた人を分かるようにしている。忘れた人には声をかけ、毎食後皆さんが口の中を清潔にできるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食材や調理法、季節感を大切にして、必要なカロリー、栄養のバランスが無理なく楽しく摂れるように工夫している。 ・1日の食事や水分の摂取量を記録し、必要量取れているかを判るようにしている。特に水分量には気をつけ、脱水症の予防に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症予防マニュアルを作成し、職員間で確認している。 ・利用者、職員共に手洗いうがいを実行している。		・研修への参加。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食中毒の予防のために、まな板や布巾の消毒記録を付けている。 ・野菜は直接産地に行き新鮮な物を購入している。肉や魚は、使う時に近くの専門店から購入し、できるだけ買い置き期間を少なくしている。		・調理に携わる職員は、食中毒や衛生管理の研修の機会には参加する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・利用者や家族、近隣の人たちに親しみやすいように、玄関の周りやベランダに季節の花を咲かせるなどして明るい雰囲気を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間には季節の花を飾ったり、四季の行事に合わせた飾り物をするなどして皆さんが楽しめるようにしている。 ・3階建てでトイレも各階に分かれているので、一か所で待たされたりしないように、職員は空いているトイレへの誘導声かけを行い、快適に使用できるように心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・3階建ての各フロアごとに共用スペースを設けている、一人でテレビを観ていたり、入居者同士や職員と話したりと思いいいに利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には本人や家族と相談し、今まで使い慣れた家具や日用品、装飾品などを置いて、できるだけ馴染みの空間に近づけて安心して過ごせるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・一人ひとりが気持ちよく過ごせるように、お天気によっては窓の開放している。 ・不快な臭いを防止するために、ごみや汚物を迅速に片付け換気を心がけている。 ・健康に配慮し、季節にあった温度湿度を設定している。特に夜間の室温には気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・一人ひとりの身体機能を考え、自立に必要な福祉用具の活用や手すりの設置を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・一人ひとりのわかる力を活かせるように、居室の表示は利用者の好きな色デザインで作ってもらう。 ・3階建てのためエレベーターを使っている。階を自由に行き来できるように、一人でもエレベーターの操作ができるように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・園芸が好きな方で、2階ベランダと玄関にプランタで草花を育てている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活の中で食は大切なものとして捉え、日々の食材や水にこだわりを持っている。食材は産地まで直接買いに行き、美味しい水を沢山飲むように、箱根、丹沢まで汲みに行く。10時のおやつは腸の健康維持に良いヨーグルトをベースに季節の旬のフルーツ、手作りのジャムをのせ季節感を醸し出している。

晴れている日は毎日近くの公園へ散歩に出かけ地域の方とおしゃべりしたり、保育園児と遊んだりして、地域住民の一人としての生活を楽しめるよう支援している。

自分で出来ることはできる限り自分で行うと共に、入居者がお互いに助け合う雰囲気を作り出すように努めている。